**保育計画(新規事業計画)成果報告書**

| | |
|---|---|
| 法人名等 | 学校法人正和学園 |
| 施設名 | 幼保認定型正和幼稚園 |
| 報告者（役職） | 后藤 友紀 （主任） |
| 住所・連絡先 | 〒195-0074 東京都町田市山崎町２２６１－１ |
| | ☎ 042 - 791-2746<br>E-mail seiwa@seiwagakuen.ed.jp |

○タイトル（保育計画 or 新規事業計画）

| |
|---|
| 地域とともに多文化共生社会の実現へ |

○主な助成備品

| |
|---|
| テーブル・椅子・楽器・木製玩具等 |

**１．保育計画(新規事業計画)策定の目的**

当園ではインクルーシブ保育を意識し、障がいのあるなしに関わらず、すべての子どもが一緒に生活をすることを実践している。しかし、個々の特性に寄り添った物理的な環境を整える工夫が更に必要であると考えている。

具体的な内容としては、静かな落ち着いた空間でゆったりと過ごし、個々に必要な支援を受けながら、それぞれが関心のあるものに目を向け取り組める地域と連携した児童発達支援事業所を含めた居場所を作っていき、配慮が必要な子どもや地域の未就園児等、一人ひとりが持っている能力を捉え、「気になること」に隠れてしまっている得意分野、魅力をさらに見つけやすくしていくことを目的としている。

また、居場所作りに関わる全ての方を保育者と捉え、園だけではなく地域のすべての人が子ども達へ関心を寄せていく。

**２．具体的な実施内容**

◎楽器

アーケードのベンチで保育者がハープの音色を奏でていると、音色に気付いた子ども達もハープの弦に手を伸ばし音が出るのか試していた。近くで気持ちが昂って走ってしまっていた子どもも音色が耳に入ると、動きが止まり、そっと楽器に触れ、自分で音色を奏でていた。また、耳に響いてきた音を言葉にし保育者とその後もどのような音が響くのか探究していた。

◎木製玩具

木製のカウンターを保育室内で使用している。様々な素材を使用し、宝石づくりを楽しんでいるとカウンターの上の板に紐で作成したものを飾っていく。飾り終えると周りで遊んでいた子ども達も作成したものに惹かれ、宝石屋さんごっこへと遊びが展開されていった。対面式になっていることで、子ども達同士での会話も弾み、配慮が必要なお子様も宝石が気になると手を伸ばし、自然と遊びへと参加をしていた。

ゆったりラウンジでは色彩豊かな積み木と鈴が転がる玩具を使用している。色や音に興味を持った子ども達も自然に玩具を手に取り、子ども達同士が遊び始めると自然と保護者の方方士の距離も近くなり、家庭での保育の中での悩みや気になることなどを共有し、保育者だけでなく地域の方との交流の中でも様々な話をするきっかけが生まれていった。

◎木製イス・テーブル

ランチルームでは、一緒に座っている子ども達の顔が見えるとその日にあったできごとの話が始まったり、苦手な食材があると「それおいしい！」など、様々な会話が生まれている。そして、配慮が必要な子ども達もテーブルをゆったりと使えることもあり、落ち着いて食事を行えると共に、食具なども積極的に扱っている。

また、テーブルは様々な形に組み替える事ができるため、地域の方を呼んだワークショップの際に使用したり、保育室から少し離れたところで落ち着いて活動をしたい子ども達がいた際にも活用している。

## ３．その成果と評価

現在、正和幼稚園では様々な配慮を必要とする子どもが多く利用しており、時折気持ちが昂ってしまいアーケードの所を走ってしまったり、大きな声を出してしまったりするような場面が見られる。その際に、ハープの音色が耳に入ってくると興味が楽器の方に向き昂っていた気持ちも落ち着きを取り戻していた。そして、しばらく楽器に触れていると保育室であったり、行っていた活動にも戻ることができ、落ち着いた雰囲気の中過ごすことができていた。

また、木の玩具やイス、テーブル等に関しては物を介して様々な繋がりを生むことができた。町田駅前にあるゆったりラウンジでは、木の玩具を導入したことで子ども達同士の繋がりが生まれ、そこから保護者同士の繋がりも生まれていき、家庭での子育ての悩みであったり、実は気にしていた自分の子どもの悩みであったり、保育者だけではなく地域に住む方たち同士でも日々の子育ての悩みをシェアしている。

園ではランチルームや懇談会等、対話が生まれるような場面で使用をしてきた。台形のテーブルは様々な形で設定ができ、その際の状況に沿った形にして活用をしてきた。中でも、ランチルームの際に使用をすると、自然と周りに座っている子ども達の顔が見えるような形になり、会話も弾んでいるようであった。また、ゆっくりと食事を進めていく必要や介助が必要な際にも、周りの様子も見ながら一緒に食べることのできる環境を整えることができている。

## ４．今後の課題と展望

正和幼稚園では様々な形で園を利用している方がおり、直接園に来る方や町田駅前からステーションバスに乗り来る方、また地域の方や園に興味を持っている方等、多種多様な方が日々足を運んでいる。様々な家庭の背景がある中で、気軽に集える場所を整えると共に、保護者の方から見た子どもの「気になる」部分等を共有することができた。また、園内でも配慮の必要な子ども達がゆったりと過ごす為のきっかけづくりとして、様々な楽器や玩具にも触れることができ、どのような物が適しているのかということを知る機会になった。今後も、園だけではなく、地域の方達との繋がりもたくさん生まれたので、正和幼稚園やゆったりラウンジ等、アウトリーチ型の地域活動を知っていってもらえるよう活動を続けていきたい。

以上